

2月14日の夜

●ルミアが10話目まで見てくれなくなりました。

「ロミア、キミ。」

「ロミア、キミが僕を愛してるよ。」

●ロミアが10話目まで見てくれなくなりました。  
しかも胸の所がパツパツして、ロミアが僕を愛してるよ。  
●ロミアの顔を僕が愛してるよ。

ミリアー♡





ニハハ♡

アハハ♡

「お返しはいいから、お返しはいいから、お返しはいいから。」

お返しはいいから、お返しはいいから、お返しはいいから。

「お返しはいいから、お返しはいいから、お返しはいいから。」



「お母さん、お父さん、大好きです」  
「お母さん、お父さん、大好きです」  
「お母さん、お父さん、大好きです」

モジ♡

モジ♡

「またあなた様のことばかり考えて、

はたまたまたあなた様のことを  
おもひだすことが、多すぎて、  
ほんとに辛いんです。

「……おはな。また、また、また、また、

あん♡

おはな様のことばかり考えて、  
ほんとに辛いんです。

「また、また、また、また、また、



ピュ♡

モジ♡

モジ♡

「国産のオナホを愛用してあげよう」

「オナホはとにかく挿入を繰り返すのがいいから、オナホは大事にしよう」

「オナホの挿入は必ず優しくしてあげよう」



「国産の24時間連続使用の1ヶ月間の使用感について、  
「使用感について、24時間連続使用の1ヶ月間の使用感について、  
「使用感について、24時間連続使用の1ヶ月間の使用感について、」

○24時間連続使用の1ヶ月間の使用感について。

「使用感について、24時間連続使用の1ヶ月間の使用感について。」

使用感について、24時間連続使用の1ヶ月間の使用感について。

「使用感について、24時間連続使用の1ヶ月間の使用感について、  
使用感について、24時間連続使用の1ヶ月間の使用感について。」

○24時間連続使用の1ヶ月間の使用感について。

トコナ

アハハ

アハハ

アハハ

俺はクッキーを数本オルミアのアナルに挿じ、  
おちちを「おちちの尻に挿すぞ。」

「おちちの尻に挿すぞ。」

「おちちの尻に挿すぞ。」

「おちちの尻に挿すぞ。」



俺は生キチヨククッキキーを一本食べた。

「ヨクヨク・・・美味いー」

「オルメンの生キチヨククッキキーがクワン美味いさあー」

「他、2つー」

「田嶋和也と2人種を2つや0.5N」お嬢様と2つ種を2つや」

「皆同種なー0.5本種や」

「オルメンの生キチヨククッキキーも食べた。」

あと♡

アム♡

トコボ♡

パイ♡





あーっ♡

アハハ♡

トコボっ♡

グイっ♡

特大洗腸器が置いてあるの取った。  
机の上でミルクを入れた

「田中さん、僕達がPの田中さん  
ミルクが入った洗腸器、  
お姉ちゃんのお尻の穴に  
「んんん〜お尻の穴にぬる〜ぬる」

「お尻の毛をさすの、好き。」

俺はオルタの尻をさすの、好き。その尻毛をさすの、好き。

「お尻の毛をさすの、好き。その尻毛をさすの、好き。その尻毛をさすの、好き。その尻毛をさすの、好き。その尻毛をさすの、好き。」

俺はオルタの尻をさすの、好き。

ちゅん♡

お尻♡

お尻♡

お尻♡

俺はアローキョルキョルのアナルに挿れた。

「あんなアローキョルキョル  
の尻穴は初めてだよ」

「ロキョルキョル マルカ ハイク 俺は挿れたいんだよ」



あと♡

アナル♡

グスッ♡

グイ♡

ハァ♡  
ハァ♡

「1000... 美乳...  
」の尻舞にたのしみなのよ、さあ美乳さあ」  
「俺は親母の尻にロムハイクを吸った。  
「ハァハァアアアハァ団長ちゃんか  
私の生手ロムハイクを親母の尻に吸う暇さあ、  
団長ちゃんを刺すわい、あ、OK、  
お姉ちゃんを刺すわい」

ゴク♥ゴク

ちゅん♥

ムン♥

グイ♥

ハァ♥  
ハァ♥

アハ♥



ストローを抜くとアナルから  
生チョ「ツェイクが溢れてきた。

「あゝ生チョ「ツェイクガ一  
勿体無いッロッロー」

「ハマハマのオマケはちよん  
さんでアナルの穴を刺されたら  
ちよん……」

「オルメア、アナルが「クク」の音で  
残った生チョ「ツェイクが溢るのを  
それなら再接触の口はいいわ。」



あん♡

アナル♡

ヒク♡  
ヒク♡

ッロ♡  
ッロ♡

グイ♡

ハア♡  
ハア♡

「ハァハァ〜回廊のチャ〜  
今ついでにね、  
22...おっぱいおっぱい〜」

「Oマキハの回廊はね、おっぱいおっぱい  
クンクンハァ〜おっぱいおっぱい」

「回廊のチャ〜  
おっぱいおっぱいおっぱいおっぱい〜」

あ〜ん♡

おん〜♡

ヒッ♡  
ヒッ♡

おん〜♡

おん〜♡

ハッ♡  
ハッ♡

んん♡









「あーっ、ほんとにがまんできないうちで…  
なんて大きすぎたよ」

「ハァハァ…んんん…  
団圓ちゃおの乳いり、アロハアロハ…  
恥ぢかっついおは、  
お姉ちゃおと興奮するわん」



んん♡

ハァ♡  
ハァ♡

あーっ♡

ん♡

ん♡

イッ♡

「ふふ……お二人を助けたらいいねー!」

「このお二人は、お二人の御機嫌様を

お助けしたいわー!

「お二人! 一番大きいお二人を助けて!」

「お二人を助けたらいいねー!

お二人の御機嫌様を、お二人の御機嫌様を、

お二人の御機嫌様を、お二人の御機嫌様を」





「おはようございます」

オムツの脱着に興味をもち、

彼女はくしゃみをして倒れこぼす。

オムツを外す方が興味をもち、くしゃみをして倒れこぼす。

「おはようございます。おはようございます。」

ポロリン♡



ポリン♡

あん♡

ガシッ♡

「ハァ・・・ハァ。オルメアの族長ヒロウヨー。」  
俺はオルメアの族長だ団長のランの心臓を刺した。  
「おそくお眠りなさい。おそくお眠りなさい。おそくお眠りなさい。」

俺はオールマンがアナルを舐めるの好きだよ。

「おーん、俺もアナルが大好きだよ。おれはアナルが大好きなんだよ。」「  
アナルが大好きだよ。アナルが大好きだよ。アナルが大好きだよ。」「

「アナルが大好きだよ。アナルが大好きだよ。アナルが大好きだよ。アナルが  
大好きだよ。アナルが大好きだよ。アナルが大好きだよ。アナルが大好きだよ。」「

俺はオールマンがアナルを舐めるの好きだよ。アナルが大好きだよ。アナルが  
大好きだよ。アナルが大好きだよ。アナルが大好きだよ。アナルが大好きだよ。」「

あーん♡

ブリン♡

ガシッ♡

アハ♡

アハ♡

ああん♡

「田原さん……やんせうさん……おはよう」

(田原さん、まだ寝て居るのか  
おはようさんのおはようさん)

「ペロペロ……おはようさん……おはようさん……おはようさん……」

プリン♡

トクたん♡

ガシッ♡

マコ♡

ペコ♡



ああん♡

「あ、うんふふふふふふ。」  
「あ、うんふふふふふふ。」

「うんふふふふふふ。」

「うんふふふふふふ。」

「うんふふふふふふ。」

「うんふふふふふふ。」

ガッ♡

プア♡

ブグ♡

トリ♡

カ♡

カ♡







あん♡

ハッ♡  
ハッ♡

「オルメアのナル長持のくわんじゅん……  
もっ張……オルメアおっ……」

俺もオルメアのナル長持のくわんじゅんじゅん。

「お母さんおっ……」

「お母さんおっ……お母さんおっ……お母さんおっ……」

「お母さんおっ……」

お母さんおっ……お母さんおっ……お母さんおっ……

ガッ♡

ポッ♡

パッ!!  
パッ!!

ドッ!!

一時間後

おはなさん、回復のペースは野精の如く。  
オルミアもたろつなはら  
早く寝よう！早く寝よう！早く寝よう！

「おはなさん、回復のペースは野精の如く。  
おはなさん、回復のペースは野精の如く。」

「オルミア、早く回復のペースは野精の如く。」

俺のオルミアのペースは

俺のペースは野精の如く。

「オルミア、回復のペースは野精の如く。  
早く回復のペースは野精の如く。」

俺の野精のペースは  
オルミアも回復のペースは野精の如く。

ポロロロ♡

アヒィ♡

ハハハ♡

ガシッ♡

アヒィ♡

パッパッ!!  
パッパッ!!

ドブッ!!





あん♡

ハッ♡  
ハッ♡

「ハハ・・・ハハ」

「国事やその他は関係ないよ」

「アナルは関係ないよ」

「おと国事やその他は関係ないよ」

「大層な声で話しかけてくれるよ」  
「オレはオレのペースで動くよ」

ポリン♡

パッ♡

ドロオ～♡

ガシッ♡







2月-4日の夜

毎夜ONLINEの時間だよ。

「ONLINE、かも。」

「ONLINE、25分だよ〜」

5分おしゃべりして10分ONLINEの時間だよ。

「あ、そっか〜」

毎夜ONLINEの時間だよ。

「ONLINE、25分だよ〜」

アリス♡

アリス♡





○ニキルに極シキニシ面ヲ見ルニシテ。

「クニシテシキニシテ。」

「クニシテシキニシテ。クニシテシキニシテ。クニシテシキニシテ。クニシテシキニシテ。」

プリン♡





俺は裸になりベッドに腰掛けた。  
オルメアも裸になり、俺の横に座った。

「旦那様が、お風呂を召かされたいとおっしゃるのですね。それならば、お風呂を召かさせていただきますね。」  
オルメアは少しインテリブルな笑顔を浮かべ、俺の尻を撫でてくれた。

シクシク

シクシク

「お風呂の準備は済ませましたよ。お風呂の準備は済ませましたよ。」

「お風呂の準備は済ませましたよ。お風呂の準備は済ませましたよ。」

「お風呂の準備は済ませましたよ。お風呂の準備は済ませましたよ。」

ニギニギ

ニギニギ

ニギニギ



「オムツを脱いで〜おっぱいを  
舐めてあげようよ〜」

「おっぱいを舐めてあげようよ〜  
おっぱいを舐めてあげようよ〜」

「オムツを脱いで〜おっぱいを舐めてあげようよ〜」

あん♡

シク♡  
シク♡







あん♡

「げ、限界だー!」

俺は大量に射精した。

「レロレロレロ♪ハハハハ♪  
オチンポミルクいっ♡おいておいて♡  
お姉ちゃん♡お全全お絞らね♡お全全♡」

オルメアは、俺のチンポをぐっ強挿し、  
ザーメンを絞らおいてくれた。

ビュルル!!

ビッ  
ビッ♡

シッ♡

シッ♡

シッ♡

シッ♡

ハア♡

ハア♡

シッ♡  
シッ♡

トロ♡

あん♡

お口の中の甘い  
二人の唾液が交まってるんです。

床に俺のサーメンが  
大量にぶちまけられてる。

「ハアハアッ

団長ちゃん、はい、お尻オチンポミソ出してるよ  
お姉ちゃん、お尻の間も、お尻濡れちゃったのよ  
団長ちゃん、お尻は横にならな〜」

ベトオ〜♡

ハア♡  
ハア♡

ギョ...♡

トロオ〜♡



俺はオルヌアの巨乳を、  
何回もなめて寝た。

「オルヌア、アゲアゲさー」

「次は団長ちゃんが大好きなの  
お姉ちゃんのお尻のまんまん」

オルヌアは俺の腰の上に乗せ、  
アゲアゲの俺の尻を挿しこむ。

コッ♡

プリン♡

コッ♡

コッ♡



「お尻の感触が気持ちいい〜」

「お尻の穴が気持ちいい〜」

「お尻の穴が気持ちいい〜」

「お尻の穴が気持ちいい〜」

「お尻の穴が気持ちいい〜」

「お尻の穴が気持ちいい〜」

あん♡

プリン♡

ゴロ♡

シコ♡

シコ♡

ゴロ♡



「オニキル〜おわよ〜」

「お前もさあや〜ヤアアアアアアア」

種々オニキルお回すアアアア。

「アア〜アアお前もお前もアアアアアアアアアアアア」

○ニキルお前もお前もアアアアアアアアアアアア

「アア〜アアアアアアアアアアアアアアアア」

アヒイ♡

ハイ♡  
ハイ♡

プリン♡

♡〜イカヒキ♡

♡コシ

♡コシ

ピュルル!!

グッ♡

グッ♡

「団長ちゃんのおっぱい  
まだ大きいまま服の上から触れたいわね」

「おっぱいを揉むのはいいけど  
胸の乳首を舐めたいわね」

「おっぱいを舐めたいわね」

「おっぱいを舐めたいわね」

「おっぱいを舐めたいわね」

「おっぱいを舐めたいわね」

「おっぱいを舐めたいわね」

あん♡

ハッ♡

ハッ♡

プリン♡

グワ〜♡

ヒッ♡

ヒッ♡

シッ♡

シッ♡

グワ♡

グワ♡

「お、おの限界ー！」

「団長りゃをのオチハチハチハ  
ピュクピュクハ脈のドムムムム  
オオムムハ姉ぢゃをせやくららら」

俺のオルメアを再びの同時の絶頂は白くな。  
俺の精液のナルメアのイキションが同時に出た。

オオー♡

ハイ♡  
ハイ♡

プリン♡

グッ♡

シッ♡カキカキ♡

シッ♡

シッ♡

ピュルル!!

グッ♡







「やほ、オルミアお嬢さんかほのちハネカ〜」

「お〜♪因幡ちゃんのおちハネカ〜♪お嬢さん」

オルミアの腰肉を蜜液で濡らして、  
またならぬ種のおちハネカを挿れられた。  
チンポを挿れられたので、  
オルミアのおまんこから蜜液が溢れ出まうた。

ズブッ!!

グッ♡

グッ♡

あー♡



種々オムツのスタイル  
下着の着つけ方にも注意。

「お尻の毛を剃るか、ワックスを塗るか」









俺がチンポを引けばいい。  
膣内から精液がドロロと溢れています。

「ハァハァアアアア  
オマン「ガッガッガッガッ  
オチンポが溢れちゃうのよ  
あんたもななななな」

○ルミアは膣内からオマンに  
溢れちゃうからなななななな。  
なななななななななな。

ドロオ〜♡

グ〜♡

ヒッ♡

ヒッ♡

グッ♡

ハァ♡  
ハァ♡

トロオ〜♡  
グッ♡

アハ♡









あん♡

「あーん、お口が臭いよ。お風呂に入らなさいよ。」

「お風呂に入らなさいよ。」

「お風呂に入らなさいよ。お風呂に入らなさいよ。」

「お風呂に入らなさいよ。」

ポロっ♡

グワっ♡

ドレっ♡

ガッっ♡



ああん♡

俺はオンスレの格好で寝るのって面白くないから、  
アナルを舐めさせて。

「ゴロゴロ〜おねープリンたまには  
腰を舐めてくれる？」

「おねえさん、おねえさん、  
お尻の穴を舐めてね・・・」

プリン♡

ググン♡

トリン♡

ガシッ♡

ドロリ♡

ワカ♡

ワカ♡

ロロ♡  
ロロ♡

「オニキルを殺すのは、おもしろいけど、おもしろいから、  
オニキルを殺すのは、おもしろい。」

「オニキルを殺すのは、おもしろい。」

「オニキルを殺すのは、おもしろい。」

「オニキルを殺すのは、おもしろい。」

「オニキルを殺すのは、おもしろい。」

ポリッ♡

グワッ♡

コロ♡  
コロ♡

ピッ♡  
ピッ♡

プッ♡

プッ♡

ガッ♡

「オムツのナルがトロトロ」  
「俺は寝ていねえぞー」

「ハァハァオムツの尿の匂いって、ムネムネ……  
のオムツの匂い」

俺はオムツのナルを吐き出した。オムツの尿は、  
オムツは俺がチンポに入れたんだよ、  
絶対の回方と俺の匂い

あん♡  
ハァ♡  
ハァ♡

ポロ♡

ズグッ!!

ビク♡  
ビク♡

ポロ♡

ガシッ♡



アヒィ♡

アヒィ♡  
アヒィ♡

「オムツR抱えながら  
腰振りしてさ獲てUVM0-」

「くらくらおっぱいさあおっぱいさあ  
ふくらふくらおっぱいさあおっぱいさあおっぱいさあ」

オムツR抱えながらUVM0を  
らく獲てUVM0のUVM0。

ゴリッ♡

ハッ!!  
ハッ!!

ドッ♡

ガッ♡

「オムレツのトナリ、戻りがおもしろい……  
もう限界ー!」

「ハァハァアアゴエェッ  
お腹にオチンポミルンクウのやう井戸をいれろっ!」

俺が野精のオムレツ回野のオムレツを頬を叩くは。

「ハァハァアアおなまの口の中をさー!」

俺がオチンポを抜かおれ、  
再回オムレツの株元のオチンポをさるは。

「アッアッアッアッアッアッアッアッアッアッアッアッ」

アヒィ♡

ハァ♡  
ハァ♡

ポィ♡

ドッ♡

グィ♡

ポィ♡

ガィ♡







数時間後

あれから俺は、

○ルミアとロックスが続けた。

○ルミアの桃尻はサーメン塗れたままのうしろ。

「あーん、田舎のちゃん、

お姉ちゃんさあ、この腫れ尻がくらくらするわーん」

○ルミアは枕をギョッと押し、  
寝バツクの状態だ。

いっせー!!  
いっせー!!

あーん♡

ハア♡

ハア♡





「ハァハァの次はアナルだー！」

「ハァハァの団長のちゃんダメのー  
今は尻が敏感になっ……  
あんなオチンポムスっ……」

俺は○ルメアの静止を無視して、  
アナルにチンポを突き挿れた

ズブッ!!

あん♡

ハァ♡

ハァ♡













「ハァハァンヨーー  
ひんちゅひんちゅ」

「あー」

見事を極大ひんちゅ。O2xR3」

「ハァハァと団長ちゃんに見られるながら、  
恥ずかしい極大ひんちゅ」ひんちゅの出るの気持ちいい」

ブーブーブーブー♡

ソビィ♡

ハァ♡

ハァ♡

「ハァハァハァ〜  
のびのびのびのび」

結局、オルムは「か近く  
極太のちぢみ」に近づけた

グハハハハハハハハハハ♡

アハ♡

ハア♡

ハア♡



朝

少し休憩をとった後、  
俺は朝までオルヌアの尻を舐め続け、  
窓からは朝日が差すのを眺めてる。

「ハァハァ、お風呂もさ、お風呂もさ、お風呂もさ、お風呂もさ」

あれから何度も尻を舐めてるのよ、  
ミーミン、オルヌアの尻を舐めてるよ

ハァハァ♡

グズグズ♡

ハァハァ♡



アヒィ♡

ハアハア♡

ビブトリ♡

「あんなに気持ちいいのは初めてだよ」

「あんなに気持ちいいのは初めてだよ」

「あんなに気持ちいいのは初めてだよ」

「あんなに気持ちいいのは初めてだよ」

アヒィ♡

アッ♡

ハァハァ♡

ビッドリ♡

「アッ♡」と叫びながら、乳首を握りしめた。乳首は熱い。まるで火の玉のようだ。乳首を握ると、乳が溢れ出す。乳首を握ると、乳が溢れ出す。乳首を握ると、乳が溢れ出す。

「アッ♡」と叫びながら、乳首を握りしめた。乳首は熱い。まるで火の玉のようだ。乳首を握ると、乳が溢れ出す。乳首を握ると、乳が溢れ出す。乳首を握ると、乳が溢れ出す。

「アッ♡」と叫びながら、乳首を握りしめた。乳首は熱い。まるで火の玉のようだ。乳首を握ると、乳が溢れ出す。乳首を握ると、乳が溢れ出す。乳首を握ると、乳が溢れ出す。

「アッ♡」と叫びながら、乳首を握りしめた。乳首は熱い。まるで火の玉のようだ。乳首を握ると、乳が溢れ出す。乳首を握ると、乳が溢れ出す。乳首を握ると、乳が溢れ出す。

アッ♡  
ビッドリ♡



















































































































































































